

令和6年度 大田区立萩中小学校 自己評価 報告書

令和6年3月5日

○ 本校の概要

児童数221名、9学級である。教員数は16名で、教員経験年数10年未満が、全体の半数以上である。
 ①児童は、「萩中小10の約束」を基に生活し、規範意識のある行動や授業規律が保たれている。
 ②学校自然園や萩中公園などの自然環境を生かした学習活動、登校班による集団登校や縦割り班活動、ボランティアによる学校支援が充実している。
 ③「理科教育推進拠点校」「令和5・6年度 大田区教育委員会教育研究推進校」として、理科教育の充実を図ることを重点に研究に取り組む。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来 し社 会を 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		4:	4	◎保護者アンケート「勉強が分かり、学力が付いている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度87.7%から86.9%となった。 ・個人面談では、大田区学習効果測定の結果などをもとに、児童一人一人のつまずきや、できていることについて丁寧な説明ができた。 ・年6回の月曜日の放課後の算数補習を通して、学習への戸惑いのある児童に手厚く指導することができた。 ・授業改善推進プランを各学年、各教科主任が全体に発表して全教員で成果と課題を確認した。ホームページや保護者会を通して、各学年の取組を丁寧に説明した。 ・校内研究では、研究主任が中心となり、「令和5・6年度 大田区教育委員会教育研究推進校」「大田区理科教育推進拠点校」として研究授業・協議などを行い、文部科学省の教科調査官を招へいし、10月25日に研究発表会を行った。	A	5	・理科の推進校として、子どもたちの発表からも評価できる。 ・研究校として、継続していることは良いことだと思う。校風が安定する。 ・STEAMを基盤とした教育に人間の多様性を認める面から共感できる。 ・目標とした項目に対して高い達成率であると思う。先生方が試行錯誤しながら授業のレベルを上げていると思う。 ・理科教育推進や算数補習の状況は、今後も適宜教えてもらいたい。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者アンケート「こどもは、勉強が分かり、学力が付いている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	3:					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					4:85%以上		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2:	2:75%以上					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		【追加】理科教育推進校として、理科の授業を中心に、児童が問題を見出し、解決する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1:	1:75%未満					
			3:80%以上が回答した。							
			2:60%以上が回答した。							
			1:60%未満であった。							

<p>個別目標を担う人材を育成します</p> <p>英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。</p> <p>【追加】世界の玄関口となる羽田の地域にある学校として、地域の教育資源を活用し、羽田の歴史や文化等を理解し、地域に貢献する意欲の向上を図っている。</p>	<p>①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。</p> <p>②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。</p> <p>③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「子どもは、意欲的に学習に取り組んでいる。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合</p> <p>4:85%以上</p> <p>3:80%以上</p> <p>2:75%以上</p> <p>1:75%未満</p>	4:	<p>◎保護者アンケート「意欲的に学習に取り組んでいる」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度84.4%から88.3%となった。</p> <p>・大田区理科教育推進拠点校として理科を中心に授業改善に取り組み、子どもたちの自主的な課題解決に取り組んだ。</p> <p>・11月のステップ菘中学習発表会で、各学年が食育、福祉、地域などのテーマを基に、子どもたちが自主的に調べ学習を行った。</p> <p>・毎月1回、朝の時間に「人権教育の時間」を設け、子どもたちの人権意識の向上を図った。</p> <p>・各学年で地域巡りや地域の商店との連携授業などを行い、地域学習を学校として行ってきた。特に6年生は、羽田の町について調べ、過去、現在、未来に分けて、羽田の歴史や文化等についてまとめ、ステップ菘中学習発表会で発表した。</p>	A	4	<p>・羽田という特色のある地域の特性を活かした学びを今後も期待したい。</p> <p>・子どもの頃から住んでいる町のことを知らしめる事は良い学習である。</p> <p>・令和元年度に羽田地区町会連合会主催の集まりで、菘中小学校の児童が「水道に命をかけた男」を演じてくれたのが評判で、参観した教育長も公の場で紹介していた。学んだ羽田の歴史や文化を地域にも教えて欲しいと思う。</p> <p>・国際化への対応への取り組みは評価できる。</p> <p>・今後も我が国の歴史・文化や地域の特性をきちんと育てていきたい。</p>
		<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>		3:		B	2	
		<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>		2:		C	0	
		<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>		1:		D	0	

<p>た一個 め人別 のひと 目標 3 り が 個性 力と 能力 を 成 し 発 揮 す る</p>	<p>児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。</p>	<p>①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。</p>	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	<p>保護者アンケート「子どもは自分からすすんで挨拶をしている」と回答した割合(4段階上位2位)</p>	<p>4: 80%以上</p>	<p>4:</p>	<p>◎保護者アンケート「自分からすすんで挨拶をしている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度72.1%から68.8%となった。</p>	<p>A</p>	<p>4</p>	<p>・萩中小10の約束は浸透してきており、皆な守っている。ただ、萩中公園をパトロールしている萩中小PTAの方が他校児童を注意すると「そんなルールはない」と口答えをされることもあるので、他校にも広がれば良いと思います。 ・利己主義が蔓延する中、相手を理解する個人主義を基調とした人間関係作りに取り組んで欲しい。 ・朝の登校で「おはようございます」という言葉より、子どもたちが大声がこぼれそうな「グッドモーニング」を使ってみたらどうか。 ・自分からすすんで挨拶している児童はまあ少ないと感じている。「萩中小10の約束」も日常的により意識する機会があるといいと思います。 ・朝、登校する児童にあいさつをすることがあるが、あまり返ってこない。 ・出雲中では、萩中小学校の児童は良い意味でおとなしく(場をわきまえられている、悪い意味だと元気があまりない。)積極的に挨拶ができることから始めてほしい。</p>				
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								<p>3: 75%以上</p>	<p>3:</p>		
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										<p>2: 70%以上</p>	<p>2:</p>
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		<p>②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。</p>	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	<p>4: 80%以上</p>	<p>4:</p>	<p>B</p>	<p>2</p>							
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					<p>3: 75%以上</p>	<p>3:</p>					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							<p>2: 70%以上</p>	<p>2:</p>			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。									<p>1: 70%未満</p>	<p>1:</p>	
		<p>③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。</p>	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	<p>4: 80%以上</p>	<p>4:</p>	<p>C</p>	<p>1</p>							
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					<p>3: 75%以上</p>	<p>3:</p>					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							<p>2: 70%以上</p>	<p>2:</p>			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。									<p>1: 70%未満</p>	<p>1:</p>	
		<p>④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。</p>	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	<p>4: 80%以上</p>	<p>4:</p>	<p>D</p>	<p>0</p>							
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					<p>3: 75%以上</p>	<p>3:</p>					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							<p>2: 70%以上</p>	<p>2:</p>			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。									<p>1: 70%未満</p>	<p>1:</p>	
		<p>【追加】「萩中小10の約束」の日々の徹底により、規範意識を育む指導を行う。</p>	4:「日常的に指導できた」と全教員が回答した。	<p>4: 80%以上</p>	<p>4:</p>	<p>D</p>	<p>0</p>							
			3: 80%以上の教員が回答した。					<p>3: 75%以上</p>	<p>3:</p>					
			2: 60%以上の教員が回答した。							<p>2: 70%以上</p>	<p>2:</p>			
			1: 60%未満であった。									<p>1: 70%未満</p>	<p>1:</p>	

学 校 別 力 目 標 ・ 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4:	◎保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度93.2%から91.1%であった。 ・授業力を高めたいという意欲ある教員が多く、管理職や先輩教員などから日常的に学んでいる。管理職からは児童の様子を通して指導を行うなどしている。 ・研究発表に参加した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・月1回の特別支援教育校内委員会を行い、サポートルームの巡回教員、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職での情報交換を日常的に行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができた。 ・季節や各学年の活動に合わせ、教室や廊下、階段の掲示内容を意図的・計画的に整えることができた。学校公開や保護者会など、保護者が来校する機会に合わせて、日頃の児童の様子が伝わるような掲示を行った。	A	5	・先生の取組姿勢が評価できる。 ・熱心な先生が多いと感じている。 ・菫中小学校の研究が他校にも伝達されていることは喜びです。 ・職員室の雰囲気は落ち着いていると感じています。 ・先生の負担軽減について、教育委員会と共に一緒に取り組んで欲しい。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3:		3	B		1					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2:			C		0					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1:			D		0					
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合		3:	◎保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度93.2%から91.1%であった。 ・授業力を高めたいという意欲ある教員が多く、管理職や先輩教員などから日常的に学んでいる。管理職からは児童の様子を通して指導を行うなどしている。 ・研究発表に参加した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・月1回の特別支援教育校内委員会を行い、サポートルームの巡回教員、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職での情報交換を日常的に行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができた。 ・季節や各学年の活動に合わせ、教室や廊下、階段の掲示内容を意図的・計画的に整えることができた。学校公開や保護者会など、保護者が来校する機会に合わせて、日頃の児童の様子が伝わるような掲示を行った。		A	5	・先生の取組姿勢が評価できる。 ・熱心な先生が多いと感じている。 ・菫中小学校の研究が他校にも伝達されていることは喜びです。 ・職員室の雰囲気は落ち着いていると感じています。 ・先生の負担軽減について、教育委員会と共に一緒に取り組んで欲しい。			
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				3:			B	1				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				2:			C	0				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				1:			D	0				
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。				保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合			2:	◎保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度93.2%から91.1%であった。 ・授業力を高めたいという意欲ある教員が多く、管理職や先輩教員などから日常的に学んでいる。管理職からは児童の様子を通して指導を行うなどしている。 ・研究発表に参加した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・月1回の特別支援教育校内委員会を行い、サポートルームの巡回教員、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職での情報交換を日常的に行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができた。 ・季節や各学年の活動に合わせ、教室や廊下、階段の掲示内容を意図的・計画的に整えることができた。学校公開や保護者会など、保護者が来校する機会に合わせて、日頃の児童の様子が伝わるような掲示を行った。		A	5	・先生の取組姿勢が評価できる。 ・熱心な先生が多いと感じている。 ・菫中小学校の研究が他校にも伝達されていることは喜びです。 ・職員室の雰囲気は落ち着いていると感じています。 ・先生の負担軽減について、教育委員会と共に一緒に取り組んで欲しい。
			3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。							2:			B	1	
			2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。							1:			C	0	
			1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。							1:			D	0	
【追加】大田区教育委員会教育研究推進校として、校内研究と連動した授業改善に励み、理科教育の充実を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	1:	◎保護者アンケート「教職員は、こどもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度93.2%から91.1%であった。 ・授業力を高めたいという意欲ある教員が多く、管理職や先輩教員などから日常的に学んでいる。管理職からは児童の様子を通して指導を行うなどしている。 ・研究発表に参加した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・月1回の特別支援教育校内委員会を行い、サポートルームの巡回教員、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職での情報交換を日常的に行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができた。 ・季節や各学年の活動に合わせ、教室や廊下、階段の掲示内容を意図的・計画的に整えることができた。学校公開や保護者会など、保護者が来校する機会に合わせて、日頃の児童の様子が伝わるような掲示を行った。		A			5	・先生の取組姿勢が評価できる。 ・熱心な先生が多いと感じている。 ・菫中小学校の研究が他校にも伝達されていることは喜びです。 ・職員室の雰囲気は落ち着いていると感じています。 ・先生の負担軽減について、教育委員会と共に一緒に取り組んで欲しい。					
	3:80%以上が回答した。		1:			B			1						
	2:60%以上が回答した。		1:			C			0						
	1:60%未満であった。		1:			D			0						
た 自 個 め 分 別 の 学 し く ぶ い き 支 援 し ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるときともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。		①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者アンケート「こどもは、明るく楽しく学校生活を送っている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合		4:	◎保護者アンケート「明るく楽しく学校生活を送っている。」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度96.6%から96.5%となった。 ・毎週火曜日に生活指導連絡会を行い、こどもたちの様子を全教職員で共有し、組織的に指導にあたった。 ・スクールカウンセラーによる5年生を対象にした全員面接だけでなく、必要に応じて担任とスクールカウンセラーで連携して、早期にスクールカウンセラーとの面談を行うことで、こどもたちが安心して学校生活を送れるようになった。 ・毎月1回、火曜日に特別支援委員会を行い、特別な支援を必要とする児童への支援体制について確認し、巡回指導教員との連携を図った。			A	5	・いじめや不登校のない明るい学校であってほしいと思っている。 ・学校全体のことを全員が共有している事は必要なことで素晴らしいと思う。 ・児童数が多くないからか、こどもたち同士、互いの気質も理解した上で関係性を作れているように感じる。 ・学年関係なくすごしていることも多く、良い環境だと感じます。 ・いじめの問題等、影響面について学校運営協議会でもぜひとも共有して、意見を求めて欲しい。	
					3:80%以上100%未満の教員が回答した。			3:				B	0		
					2:60%以上80%未満の教員が回答した。			2:				C	1		
					1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:				D	0		
			②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。		4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。		保護者アンケート「こどもは、明るく楽しく学校生活を送っている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	3:			◎保護者アンケート「明るく楽しく学校生活を送っている。」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度96.6%から96.5%となった。 ・毎週火曜日に生活指導連絡会を行い、こどもたちの様子を全教職員で共有し、組織的に指導にあたった。 ・スクールカウンセラーによる5年生を対象にした全員面接だけでなく、必要に応じて担任とスクールカウンセラーで連携して、早期にスクールカウンセラーとの面談を行うことで、こどもたちが安心して学校生活を送れるようになった。 ・毎月1回、火曜日に特別支援委員会を行い、特別な支援を必要とする児童への支援体制について確認し、巡回指導教員との連携を図った。	A	5		・いじめや不登校のない明るい学校であってほしいと思っている。 ・学校全体のことを全員が共有している事は必要なことで素晴らしいと思う。 ・児童数が多くないからか、こどもたち同士、互いの気質も理解した上で関係性を作れているように感じる。 ・学年関係なくすごしていることも多く、良い環境だと感じます。 ・いじめの問題等、影響面について学校運営協議会でもぜひとも共有して、意見を求めて欲しい。
					3:80%以上100%未満の教員が回答した。			3:				B	0		
					2:60%以上80%未満の教員が回答した。			2:				C	1		
					1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			1:				D	0		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者アンケート「こどもは、明るく楽しく学校生活を送っている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	2:			◎保護者アンケート「明るく楽しく学校生活を送っている。」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度96.6%から96.5%となった。 ・毎週火曜日に生活指導連絡会を行い、こどもたちの様子を全教職員で共有し、組織的に指導にあたった。 ・スクールカウンセラーによる5年生を対象にした全員面接だけでなく、必要に応じて担任とスクールカウンセラーで連携して、早期にスクールカウンセラーとの面談を行うことで、こどもたちが安心して学校生活を送れるようになった。 ・毎月1回、火曜日に特別支援委員会を行い、特別な支援を必要とする児童への支援体制について確認し、巡回指導教員との連携を図った。		A		5	・いじめや不登校のない明るい学校であってほしいと思っている。 ・学校全体のことを全員が共有している事は必要なことで素晴らしいと思う。 ・児童数が多くないからか、こどもたち同士、互いの気質も理解した上で関係性を作れているように感じる。 ・学年関係なくすごしていることも多く、良い環境だと感じます。 ・いじめの問題等、影響面について学校運営協議会でもぜひとも共有して、意見を求めて欲しい。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		2:					B		0			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		1:					C		1			
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1:					D		0			
【追加】週1回の生活指導連絡会等にて児童の様子を全教員で情報共有するとともに、指導方針を共有していく。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者アンケート「こどもは、明るく楽しく学校生活を送っている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	1:		◎保護者アンケート「明るく楽しく学校生活を送っている。」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度96.6%から96.5%となった。 ・毎週火曜日に生活指導連絡会を行い、こどもたちの様子を全教職員で共有し、組織的に指導にあたった。 ・スクールカウンセラーによる5年生を対象にした全員面接だけでなく、必要に応じて担任とスクールカウンセラーで連携して、早期にスクールカウンセラーとの面談を行うことで、こどもたちが安心して学校生活を送れるようになった。 ・毎月1回、火曜日に特別支援委員会を行い、特別な支援を必要とする児童への支援体制について確認し、巡回指導教員との連携を図った。	A			5	・いじめや不登校のない明るい学校であってほしいと思っている。 ・学校全体のことを全員が共有している事は必要なことで素晴らしいと思う。 ・児童数が多くないからか、こどもたち同士、互いの気質も理解した上で関係性を作れているように感じる。 ・学年関係なくすごしていることも多く、良い環境だと感じます。 ・いじめの問題等、影響面について学校運営協議会でもぜひとも共有して、意見を求めて欲しい。					
	3:80%以上の教員が回答した。		1:			B			0						
	2:60%以上の教員が回答した。		1:			C			1						
	1:60%未満であった。		1:			D			0						

<p>安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境なを つ学 習く空 間と安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「教職員は、健康で安全な学校生活を送るための指導をしている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合</p> <p>4:95%以上 3:90%以上 2:85%以上 1:85%未満</p>	<p>4: 3: 4 2: 1:</p>	<p>◎保護者アンケート「健康で安全な学校生活を送るための指導をしている。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度95.9%から97.3%であった。 ・養護教諭がすすんで、ケガや病気の予防に関する資料を保護者に配布したり、直接児童に指導したりする取組を行っている。 ・休み時間の終わりに手洗い・うがいを促す放送を行うなど、感染症対策を行った。 ・休み時間は、教員も校庭に出て児童と運動するなどしてふれあい、児童理解につなげていた。 ・生活リズム調査を学期ごとに1週間に渡って行うことで、児童の生活習慣を把握し、指導や改善に当たることができた。また、望ましい生活習慣への意識が高まった。</p>	<p>A 5 B 1 C 0 D 0</p>	<p>・ICTの活用は時代に対応した取り組みとして、一層推進されることを期待しています。 ・学校生活の環境は適切だと感じています。登校班があることで、朝の生活リズムも整えやすい環境だと思えます。 ・子どもと過ごす時間を作ることは大変な事と思います。先生は子どもにとって特別な人だと思います。 ・ICT端末の更新の時期を迎えると思いますが、軽量になり、児童の荷物が軽くなることを願っています。</p>							
		<p>③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>												
		<p>【追加】環境整備部が中心となり、教室や廊下、階段などの掲示内容を定め、意図的・計画的に環境を整える。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。</p>												
		<p>【追加】每学期1回、地域班下校を行い、登下校の安全について確認し、児童の安全への意識の向上を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。</p>												
		<p>学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家標 くユ庭フ りますニ・ すテ地 すイ域 の核連 携して・ 協働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>						<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「学校は、地域の力を子どもたちの教育に活かしている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合</p> <p>4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満</p>	<p>4: 3: 3 2: 1:</p>	<p>◎保護者アンケートにより、「地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育に活かしている。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度90.4%から86.9%であった。 ・学校ホームページを最大限に活用し、毎日の教育活動を写真と説明付きで更新してきた。また、ケガ等で欠席する児童には、学級での活動や教室の黒板などをライブ配信した。 学校生活の様子を毎日記事にして更新した。また、例年のように来校できない保護者や地域の方々に向け、行事の様子や日常の学習の様子を動画で紹介した。 ・今年度5月からコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会は、1学期授業参観・協議会、2学期授業参観・協議会、学校行事参観・協議会として行った。その他にも、運動会や小中高音楽交流会などの参観の機会をもった。3学期は授業参観・協議会として開催する。 ・学校支援地域本部を中心に図書や家庭科、フク夏などのボランティア活動の支援が充実した。また、地域力を生かした活動として5年生が地域の商店との連携授業を行った。今年度もゲストティーチャーを招き、講演や実技体験を通して学習を深めることができた。</p>	<p>A 4 B 1 C 1 D 0</p>	<p>・PTAは会長を中心として、改革の意欲が高く、ひらかれたものにしていこうという気概を感じる。 ・学校HPで授業の内容や様子がわかるのはうれしい。親子の会話のきっかけにもなり続けていって欲しい。 ・PTAと学校の一緒に活動がもう少しできると、より地域との関係も近くなれそうな気がしています。 ・地域との関係は十分とは言えない。祭礼やふれあい祭りなど、地域行事への参加を促して欲しい。</p>
									<p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>					
									<p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>					
									<p>【追加】学校のHPを活用し、学校の様子を地域・家庭に積極的に伝えていく。また、学級・学年・学校だよりで保護者に児童の様子を伝えるとともに、必要に応じて電話連絡や対面により情報共有をしている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。</p>					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。